初年次教育における大学史料の活用に関する一考察：稚内北星学園大学を事例に

石橋　豊之

● **要約**

稚内北星学園大学は北海道稚内市に設置されている道北宗谷地域唯一の高等教育機関であり、1 学部１学科の単科大学である。1987 年に短期大学として開学し、2000 年に現在の 4 年生大学へと移行している。

以上のような背景を持つ本学のカリキュラムには初年次教育の一環として基礎演習Ⅰ・Ⅱを開講している。講義の目的として「本学を知る」というものがあり、これは本学の学生の多くは、本学について詳しく知らない状態で入学することに起因している。そのような学生たちに対して、本学がどのような大学であるかについて理解し、その中で、学びたいものを明確化させることを目指している。

本年度はその中でも大学図書館に所蔵されているあるいは新たに所蔵した本学に関する史料の利用を促した。本稿に関しては、これら大学史料を使用することが科目の目標である「本学を知る」を達成する上でどの程度有効なのかについて検討したものである。

● **キーワード**

大学図書館

大学史料

初年次教育

基礎演習

1. 背景

1.1 稚内北星学園大学について

稚内北星学園大学は北海道稚内市に設置されている道北宗谷地域唯一の高等教育機関であり、1 学部１学科の単科大学である。その前身は稚内北星学園短期大学である。当時稚内をはじめとした道北地方には高等教育機関が存在していなかった。そうした状況下において、1978 年 6 月、稚内市議会に大学誘致特別委員会が設置された。その後、宗谷管内の人間も合わせた稚内市大学誘致期成会が設立された。そしていわゆる公設民営型の大学として 1987 年 2 月に文部省（当時）より学校法人稚内北星学園稚内北星学園短期大学として正式に認可されるに至った(1)。以上のように本学は地域住民の要望により開校した大学と言える。

他方で、少子化の進行や短大進学率が低下し 4 年生大学の希望者が増加する中で、稚内北星学園短期大学も 2000 年に 4 年生大学へと移行している。その際には全国ではじめて「情報メディア学部」を設置し、この学部は現在まで続いている。また、4 年生大学への移行するにあたっては稚内市が全面支援し私立大学でありながら北海道からも財政支援を受けるなど地域からの協力があった(2)。

このように本学は地域の多大な支援があったからこそ存在している大学と言える。そのため、本学の基本理念としても「地域社会に貢献し、キリスト教精神の根底にある人間の自由と尊厳を重んじ、平和を愛する人材を育成すること」を掲げており地域文化の発展に寄与することができる人材の育成を目指している(3)。

1.2 本学 1 年次必修科目「基礎演習Ⅰ、Ⅱ」について

本学には 1 年次必修科目として、基礎演習Ⅰ、Ⅱを開講している。この講義の目標としてⅠおよびⅡ共通として下記のように設定している。

> 大学で何を学び、どのような大学生活を送りたいかを明確にしていく（可能であれば、将来の展望や目標も定める）。合わせて大学生活で必要となる基礎的なリテラシーの習得を目指す。

また、それぞれの目的は下記の通りである。

・基礎演習Ⅰ（前期）
大学のことを知り、自分を振り返り、自らの学びの目標を定める

・基礎演習Ⅱ（後期）
自分の目標をある程度定め、自分なりの必然性をもってコースを選択するための助けとする

こうした狙いを持っている理由としては地方私立大学としての実情がある。本学を希望する学生で地元進学の場合、地元にあるからというのが第一理由となるため、本学について詳細に調べているわけではない。また、各種特待生の関係であったり国立大学等と併願した結果第一希望に合格できなかった学生などが入学することも少なくない。そのため、彼らは本学について明確に理解していない状態

で入学してきていることが多く、1.1 で述べたような本学の設立経緯等についても知らないのが現状である。このことから、前期ではまず自身が所属する大学について理解を深め、後期では理解を深めた上でその大学にて何を自分は何を学んでいくのかを明確にしていくための科目となっている。そして、そのために必要となるアカデミック・スキルであるレポートの作成能力とプレゼンテーション能力を合わせて修得することを目指している科目である。

1.3 本研究の目的

以上のように本学は初年次教育(4)の一環として基礎演習を開講している。他方で、「大学を知る」ということに対するこれまでのアプローチとして本学の勤務歴の長い教職員へのインタビューなどを実施してきた。確かに勤務歴の長い教員にインタビューを行うことは大学の歴史を知る上では有効である。しかし、一回のインタビューでその全てを聞き出すのは難しく、また学生側がこちらの意図を十分に理解していない場合も同様の問題が発生する。また、基礎演習Ⅰの最終課題として「稚内北星学園大学はどのような大学か」について論じるレポートを課している。筆者は2016年度より基礎演習の科目を担当しているが、多くの学生のレポートの参考文献は、インターネット上のものであった。確かに本学の公式Webサイトを見ることはレポートを作成する上で有効であることは認めるが、その情報量は限定的であるのも事実である。そのため、学生のレポートの多くは、公式Webサイトの内容をまとめ、そこに自身の主張を述べるという形式となるケースが散見された。

以上のような背景から今年度の基礎演習Ⅰでは、レポートを最後に出す方式から、作成能力の修得を目指して講義内で作成する時間を前年度よりも多くとることとした。学習内容については下記の通りである (5)。今年度からは、第8回と講義の中間地点からレポート作成を開始した。これにより、教員によるレポート指導をこれまでより長い期間取ることが可能となり、合わせてレポートの完成度を高めることを目指せるようになった。また、前段階において図書館の使い方に関しても講義を行い（第5回が該当)、図書館資料の利用も推奨した。

学習内容

1. オリエンテーション
2. 自分史の発表と交流
3. メディアとの付き合い方
4. 大学を知ろう(1) 調査・準備編：ネットと上手く付き合おう
5. 大学を知ろう(2) 自分で調べよう
6. 大学を知ろう(3) 調べた成果を発表しよう
7. 大学を知ろう(4) 学長のお話
8. 大学を知ろう(5) 卒業生のお話
9. 大学を知ろう(6) 教職員ランダムインタビュー・準備編（1）：知りたいことを知る方法 ～調査方法～
10. 大学を知ろう(7) 教職員ランダムインタビュー・準備編（2）：人と接する方法 ～マナーリテラシー～
11. 大学を知ろう(8) 教職員ランダムインタビュー・実践編
12. 大学を知ろう(9) インタビュー内容について報告しよう: プレゼンの基本編
13. 大学を知ろう(10) インタビュー内容について報告しよう
14. 学びのまとめ　大学について知ったことをまとめて、この大学で自分がどう学びたいかを考えよう
15. 大学祭準備
16.

図 1　2017年度学習内容

学習内容

1. オリエンテーション
2. リテラシー：ノートの取り方
3. 講座: メディアとの付き合い方
4. リテラシー: 批判的読解1: 数字・グラフの見方
5. リテラシー: 情報の探し方・批判的読解2: 文章
6. 講座: 学長講話
7. リテラシー: 批判的読解3: まとめ方（要約）
8. リテラシー: レポートの書き方入門編1
9. 講座: 卒業生講話
10. リテラシー: 情報の整理
11. リテラシー: レポートの書き方入門編2
12. 講座: マナーリテラシー(異文化コミュニケーション)
13. リテラシー: レポートの書き方入門編3
14. リテラシー: レポートの書き方入門編4
15. 前期のまとめと後期に向けて
16. 講座: 学祭

図 2　2018 年度学習内容

当初大学図書館所蔵の資料に関しては過去の大学案内や本学に関連する内容が記載されている『稚内市史　第２巻』(1999) 等を想定していた。しかし、大学図書館司書の協力のもと、実際にはそれ以上の資料が存在していることが判明した。そこで、より一層こうした大学史料の利用をレポート作成に利用するよう推奨した。

本稿では、以上のように初年次教育の一環として開講している基礎演習Ⅰにおいて、大学史料を使用することで、科目の目標である「本学を知る」を達成する上での有効性について検討するものである。

2. 対象史料

2.1　ポスターチラシ関連

ポスターおよびチラシ等に関しては表１の通りである。大学図書館に所蔵されているものは全てで 47 枚に及ぶ。こうした史料はレポートには直接利用するのは難しいが、貴重な１次史料でもある。なお、発行年が不明な 10 枚に関しては、表１では省略している。

表 1　本学ポスター・チラシ関連

発行年	内容
1991 年	稚内北星学園短期大学　ワークステーション実習室完成記念式
2000 年	2000 年夏期　体験入学のご案内
2000 年	2000 年秋期　体験入学のご案内
2001 年	2001 年夏期　体験入学のご案内
2001 年	2001 年秋期　体験入学のご案内

2002 年	ＣＡＭＰＵＳ　ＧＵＩＤＥ　2002
2002 年	2002 年体験入学のご案内
2002 年	情報メディア論　　丸山不二夫/編　チラシ
2003 年	2003 年体験入学のご案内
2004 年	体験入学　ポスター
2005 年	東京サテライト校
2006 年	2006 年体験入学のご案内
2008 年	2008 年　オープンキャンパスのご案内　ポスター
2008 年	2008 年　オープンキャンパスのご案内
2008 年	Open Campus&保護者のための進学説明会　表
2008 年	Open Campus&保護者のための進学説明会　裏
2009 年	Summer &　Autumn 2009 稚内北星学園大学　オープンキャンパス&保護者説明会
2009 年	稚内北星学園大学　オープンキャンパス！2009 年 10 月 3 日
2009 年	Autumn 2009 稚内北星学園大学　オープンキャンパス&保護者説明会
2009 年	OPEN CAMPUS &　保護者のための進学説明会　2009 年 11 月 28 日土曜日
2009 年	はがきサイズ「地方の時代映像祭にて優秀賞受賞
2009 年	稚内北星学園大学　高校生エッセイコンテスト
2010 年	第 1 回　OPEN CAMPUS &　保護者のための進学説明会
2010 年	第 2 回　OPEN CAMPUS &　保護者のための進学説明会
2010 年	第 3 回　OPEN CAMPUS &　保護者のための進学説明会
2010 年	第 4 回　OPEN CAMPUS &　保護者のための進学説明会
2010 年	宗谷ジャーナル
2010 年	稚内北星学園大学ニュース№1
2011 年	第 1 回　オープンキャンパス&保護者のための進学説明会
2011 年	第 2 回　オープンキャンパス&保護者のための進学説明会
2011 年	稚内北星学園大学ニュース№6
2012 年	こんにちは　稚内北星学園大学です（稚内北星学園大学ニュース№7）
2012 年	オープンキャンパス&保護者説明会
2012 年	市内高校生のためのオープンキャンパス
2012 年	オープンキャンパス 2012
2014 年	OPEN CAMPUS 2014
2015 年	うちの大学変ります。　ＣＯＣに選定

2.2 開学関連資料等

開学に関連する資料等、実際にレポートを書く際に有効であろう資料一覧を表 2 にまとめた(なお表の項目等は大学図書館のものをそのまま使用している)。元々大学図書館に所蔵されていた資料だけではなく、レポートを作成するにあたり学生からのレファレンスサービスに応える形で、大学事務局から入学者数等の統計情報に関しても入手し、それらも大学図書館にてファイリングを行なった。

表 2　開学関連資料等

タイトル	補足	著者・作成	出版・作成年
入学者数一覧		事務局より入手	2018 年 12 月
本学入学者の推移　2018 年 12 月 12 日現在		事務局より入手	2018 年 12 月
最北端は最先端　News File’93		稚内北星学園短期大学	
10 年のあゆみ　稚内北星学園大学　開学 10 周年記念　パワーポイント資料		事務局より入手	2010 年 9 月
稚内北星学園短期大学の設立当時を振り返って	個人資料	稚内北星学園大学前事務局長土門勝志氏	2018 年 2 月
高等教育機関の必要性と可能性～日本最北端の国際文化都市をめざして～昭和 57 年 5 月		北海道稚内市	
高等教育機関の必要性と可能性～日本最北端の国際文化都市をめざして～昭和 58 年 12 月		北海道稚内市	
「地域と教育」再生研究会調査研究報告書　第 2 号　稚内市の子育て運動と教育再生＝地域再生	p127～136	「地域と教育」再生研究会　編集	2011 年 5 月
「稚内市史」第二巻	p868~872	稚内市史編さん委員会　編集	1999 年 1 月
稚内北星学園短期大学パンフレット	1978（昭和 53）～1986（昭和 62）誘致から開学まで		

from NORTH　集	開学時設計写真	上遠野徹　著（本学デザイン設計者）	1993 年 11 月
稚内市統計書 平成 27 年版	大学の概要より教員数と職員数　学生数	稚内市総務部総務防災課選挙・統計グループ	2015 年 4 月
資料一覧表	稚内北星学園大学に関する資料の一覧表	稚内市総務部市史編さん事務局	
開学関連記事 （広報わっかない関連）	1984（昭和 59）広報わっかない 7 月号　大学誘致に全力投球		
開学関連記事 （広報わっかない関連）	1986(昭和 63）広報わっかない 3 月号　地域に開かれた大学		
開学関連記事 （広報わっかない関連）	1996(平成 8）広報わっかない 7 月号　特集稚内北星学園短期大学		
開学関連記事 （広報わっかない関連）	1998（平成 10）広報わっかない 1 月号　先頭に立って支援します		
開学関連記事	2000(平成 12）月刊道北 3 月号　開学迫る稚内北星学園大学		
開学関連記事	2000(平成 12）道新 TODAY8 月号　シリーズ大学探訪　稚内北星学園大学		
開学関連記事 （JUST NOW 関連）	2002（平成 14）JUST　NOW50.稚内北星学園大学教授/エドワード・バンドロウ		

開学関連記事 （JUST NOW 関連）	2003（平成 15）JUST　NOW52. 稚内北星学園大学映像コミュニティ MOOV U		
開学関連記事 （JUST NOW 関連）	2003(平成 15）JUST NOW53.最北ネットワークの形成		
開学関連記事 （JUST NOW 関連）	2011(平成 23）JUST NOW84.わっかない風香		

2.3 新聞切り抜き・パンフレット・その他資料

最後に、新聞の切り抜き等の資料である。個々の記事等は膨大ではあるが、これらについてもファイリングし、大学図書館にて保管している。主として、日刊宗谷・稚内プレス・北海道新聞・北海タイムス（現在は廃刊）といった地方紙が中心であるが、読売新聞・朝日新聞・毎日新聞など全国紙の記事も収集している。他方で、新聞記事に関しては全ての記事を収集できているわけではない。しかし、新聞記事等は当時を知る手がかりとて非常に重要であるため今後は現在収集できていない開学当初からの新聞記事についても網羅する必要がある。このことにより、本学の変遷に関しても新聞記事からたどることが可能となる。

また、短期大学時代からのパンフレット資料についても所蔵されている。このほか、本学が発行している「大学新聞」や COC(地（知）の拠点)整備事業に関連して発行した資料も所蔵されている。これらは開学当初のものとは異なるが近年の本学を知る上では有効である。

3. 結果と考察

今回、基礎演習のレポートにおいて、上記の資料を使用した学生は日本人学生 20 名のうち、7 名であった。使用した資料については表 3 の通りである。

表 3 学生が使用した資料及びその人数

資料名	使用人数
稚内市史　第２巻	4 名
稚内北星学園大学 CampusGuide2018	１名
稚内北星学園大学 CampusGuide2019	1 名
稚内北星学園大学 CampusGuide1987	1 名
稚内北星学園大学の設立当時を振り返って	2 名
高等教育機関の必要性と可能性　～日本最北端の国際文化都市をめざして～(1983)	１名
高等教育機関の必要性と可能性　～日本最北端の国際文化都市をめざして～(1984)	１名
月刊道北 3 月号　開学迫る稚内北星学園大学	2 名
日刊宗谷　本学関連記事	2 名
入学者数一覧	1 名

当初期待よりは人数が少なく使用した資料についても限定的であった。この要因としては、図書館所蔵の資料の使用を必須としなかったことが挙げられる。もちろん資料を使用したことが良いレポートになるかは別問題であるのは事実であり、実際に使用していない学生のレポートでも1年前期段階としては完成度の高いものも存在した。一方で、使用した学生に関しては7名ともレポートとしての体裁がとれており、質の高いものであったのも事実である。

使用している資料を見ると一番多いもので『稚内市史　第２巻』であった。これは、大学についての情報がまとまっており、参考にしやすいためであると推察する。このほか本学が開学に至った経緯を記されている資料の利用もあり、実際に学生のレポートでも開学の経緯としてまとめられていた。

他方で、こうした資料を使用しなかった学生のレポートを見るとやはり Web 上の情報を使用していた。もちろん「稚内北星学園大学はどのような大学か」という大きいテーマにしているため、着目する内容によっては、Web 上の情報のみでも十分に対応しうる。しかし、例年通り本学 Web サイトのみを参考にしたのみのレポートも散見され、この点についての改善が今後求められる。

4. 今後の展望

今年度は試験的に基礎演習Ⅰにおいて、レポート作成能力に主眼を置き大学図書館所蔵の大学史料の利用を促した。結果として前述した通り、期待以上の成果は得られなかった。移行して1年目ということもあり、筆者の準備不足や大学図書館との連携が遅れた側面は否定できない。次年度以降改善すべき点であろう。他方で、図書館職員の尽力や学生のレファレンスサービスを受けたことにより当初想定よりも多くの資料の存在が明らかになり、この１年間で概ね整理することができた。そのため、次年度以降は、より一層の大学史料の利用が可能となったと言えよう。以上を踏まえて次年度以降取り組んでいくべき点を下記に記述する。

1. 基礎演習Ⅰにおける大学史料利用の必須化

本来、大学生のレポートに制限をかけることは望ましくないと思われるが、基礎演習Ⅰでは練習としての側面もあるため、Web 媒体以外の資料を使用することに慣れさす意味も含めて検討するべきであろう。このほか、基礎演習Ⅰで現在行なっている要約等の練習においてもこうした大学史料を利用することが望ましい。

2. 史料のデジタル化

ポスター等の一次資料については、数が限られており、また原資料しか存在しないものもある。図書館は資料の利用はもちろん保存も重要な役割である。学生による利用によって史料を紛失するようなことがあってはならない。また、利用の促進を図るためにデジタル化し、例えば本学の LMS(Learning Manage System)(6)などで閲覧できる形にすることで大学図書館に直接行かなくても利用可能になる。最終的にはデジタルアーカイブとして、記録・公開しより多くの人に知ってもらうことが理想ではあるが、まずは学生への利用を優先し活動したい。

今後は前述した点を踏まえて基礎演習Ⅰ・Ⅱの内容を構成していきたい。また、筆者が担当を外れても問題ないよう、大学図書館との協力体制を今以上に確立させておく必要がある。また、成果を可視化するためにも講義前・後に質問紙調査等を行うことも視野にいれる（本学についての理解度などをはかるため）。

基礎演習は大学図書館所蔵の大学史料を利用させることが目的ではない。本学について理解しているとは限らない1年生が「大学を知る」ための手段である。大学を知り理解した上で大学に対して批判的な考えを持つかあるいは帰属意識を持つかはその学生次第である。しかし、筆者としては、なぜ最北端のこの地に大学があるかについて正確に理解し、大学に対する帰属意識やアイデンティティの確立等につながることを期待したい。こうした大学に対する帰属意識を高めることの必要性は大庭らも指摘している(7)。大庭らの所属している安田女子大学においては創立者である安田リヨウの『夜雨摘録』といった図書が残されている。しかし比較的歴史の浅い本学においてはこのような資料は存在しない。だからこそ現状存在する大学史料を活用するほかない。そして、それは大学図書館にただ所蔵しておくだけではなく、初年次教育へ活用していくことが望ましいと思料する。

●謝辞

稚内北星学園大学図書館職員由利真代氏には、資料およびおその一覧表（本稿における表1、2の元となったもの）の提供など、本稿を執筆するにあたり多大なご支援を賜った。この場をお借りして御礼申し上げる。

● 注

(1)稚内市史編さん委員会. 稚内市史　第二巻. 稚内市, 1999, 1121p. 参照部分は、p.868-872.

(2)開学迫る稚内北星学園大学. 月刊道北3月号(2000年3月1日)

(3)稚内北星学園大学." 基本理念・建学の精神".稚内北星学園大学.
http://www.wakhok.ac.jp/philosophy.html, (accessed 2019-02-04).

(4)初年次教育について、文部科学省は次のように記述しており、本稿における考え方もそれに準じている。

高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム。高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり、新入生に最初に提供されることが強く意識されたもの。

出典: 文部科学省. "大学における教育内容等の改革状況について（平成27年度）". 文部科学省.
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1398426.htm , (accessed 2019-02-04).

(5) 共に本学Webサイトのシラバスより抜粋

図1 稚内北星学園大学."シラバス 基礎演習Ⅰ.". 稚内北星学園大学.
http://www.wakhok.ac.jp/2017/syllabus2017-123/BasicSeminar1.html, (accessed 2019-02-04).

図 2 稚内北星学園大学.”シラバス 基礎演習Ⅰ.”. 稚内北星学園大学.
http://www.wakhok.ac.jp/2018/syllabus2018/BasicSeminarI.html , (accessed 2019-02-04).
(6)本学で使用している e-learning 用のシステム。所属教職員・学生への限定公開等が可能
(7)大庭由子, 中島正明. 私立大学の教育理念とアイデンティティ構築: 『夜雨摘録』内容分析を中心として. 日本学習社会学会 第 14 回発表要旨集, 2017, p.26-27.

● **英文タイトル**

A Study of Historical Materials of University as First-Year Experience: A Case Study of Wakkanai Hokusei Gakuen University

● **英文要約**

Wakkanai Hokusei Gakuen University is the only higher education institution in the northern Soya area which is established in Wakkanai City, Hokkaido, and is a university with a single faculty and department. It was opened as a junior college in 1987, and in 2000 up-grated to a 4th grade university.
Basic seminar I and II are offered as part of the first-year curriculum. The purpose of the lecture is " to know the our university ", which is attributed to the fact that many of our students enter the university without knowing about the university. Therefore, use of historical materials related to the university library is highly recommended. In this study, the effectiveness of using historical materials in order to understand the university is verified.